

東京音楽大学シンフォニーオーケストラ定期演奏会

満場の喝采を浴びて終了

2018年12月12日 東京芸術劇場コンサートホール



12月12日に東京芸術劇場にて、シンフォニーオーケストラ定期演奏会が満場の聴衆の中で行われました。第1部は、モーツァルトの古典派作品「ハフナー」からはじまり、続いて、第34回日本管打楽器コンクール第1位受賞・現在4年に在学中の吉永優香を打楽器ソリストに迎え、ジョリヴェの打楽器協奏曲を躍動感あふれる演奏で会場を沸かせました。第2部は、パイプオルガンやコントラファゴットなどの発する重低音によって会場全体の空気が震え出すなかで、シュトラウスの大曲「ツァラトゥストラはかく語りき」の演奏がはじまりました。拍手喝采が鳴りやまない中、アンコール曲の域を超えたアンコール、ブラームスの「悲劇的序曲」に移り、フィナーレを荘厳に飾りました。

指揮の広上淳一教授は「東京音楽大学111周年という節目に隔世の感を感じています。思えば40年ほど前本学を卒業しましたが、今に至るまでの東京音楽大学の進歩を感じられる演奏会でした。学生たちがこれほどすばらしく大曲を演奏し、誇りに思います」と挨拶しました。